

国際奉仕委員会アンケート集計報告

2012—2013 年度国際ロータリー第 2790 地区
国際奉仕委員会

アンケート実施クラブ 84 クラブ
(未回収クラブ 16 クラブ)

アンケートの目的

2790 地区内における「未来の夢計画」に関する内容の周知状況を確認し、今後の財団補助金の有効な活用の一助となることを期して実施させて頂きました。

国際奉仕委員会アンケート

クラブ名 () ロータリークラブ
ご回答者 ()
役職名 ()

1) 本年度の国際奉仕委員会の活動内容をご記入ください。

・
・
・

2) それらの活動は順調に行われていますか？

1 順調である 2 多少の問題を抱えている 3 わからない

2. とお答え頂いたクラブは具体的にどのようなことですか？

()

3) 本年度地区補助金のうちマッチンググラントの申し込み枠があることを知っていますか？

1 知っている 2 知らない

4) 今年度マッチンググラントに申し込む考えはありますか？

1 ある(内容を知りたい) 2 ない

5) 次年度以降、新しい活動の計画や考えはありますか？

()

6) 次年度からスタートする新補助金制度のグローバル補助金を申請する計画はありますか？

1 ある 2 考えていない 3 未定である

7) グローバル補助金を使つての国際奉仕活動をする場合の問題点は何ですか？

- 1 グローバル補助金が良く理解出来ていない
- 2 グローバル補助金についてもっと知りたい
- 3 事業の内容をクラブ内で企画検討できない
- 4 わからない

8) 地区委員会に対しての要望があればご記入ください。

()

ありがとうございました。

集計データのパーセント計算は母数を回収された 68 クラブで計算しています

設問 1) 本年度の国際奉仕委員会の活動内容をご記入ください。

内容を精査したところ以下の様に大別出来ました。詳細内容は控えさせていただきます。

- ① 海外姉妹クラブ（友好クラブ）との相互交流を実施している。または、その関係を活用した事業を実施している。 **18 クラブ (27.3%)**
- ② 具体的な国際奉仕活動を実施している。 **10 クラブ (15.2%)**
- 1) 姉妹クラブとのマッチンググラントで、インドの貧困地区の僧侶に対し医療補助を実施している。
 - 2) 姉妹クラブと協力して現地の就学支援を実施している。
 - 3) バングラディッシュ、ダッカに建設した小学校に井戸を掘り、プールを建設して水泳教室を開いている。
 - 4) ネパールへ山羊を寄贈する。(グローバル補助金申請中)
 - 5) 20 周年に際しマッチンググラントを活用してタイの小学校へ浄水器を寄贈した。
 - 6) 学友が母国において女性の識字率向上のため教室を開いて文字と数学を教えている活動に 15 万円支援している。
 - 7) タイの貧困子女の為にメガネプロジェクト（寄贈）を実施している。
 - 8) 地域の留学生を招いて国際バーベキュー大会を開催した。
 - 9) ペナン共和国給食サービスへ児童 6 名分の年間給食代を寄付している。
 - 10) フィリピン姉妹クラブより 5 名の中高生を招いてホームステイ受け入れを実施した。更に、地域学校への体験入学を実施。
- ③ 地域の国際交流協会との連携協力を実施している。 **10 クラブ (15.2%)**
- ④ 青少年交流（交換）事業を実施している。 **6 クラブ (9.1%)**

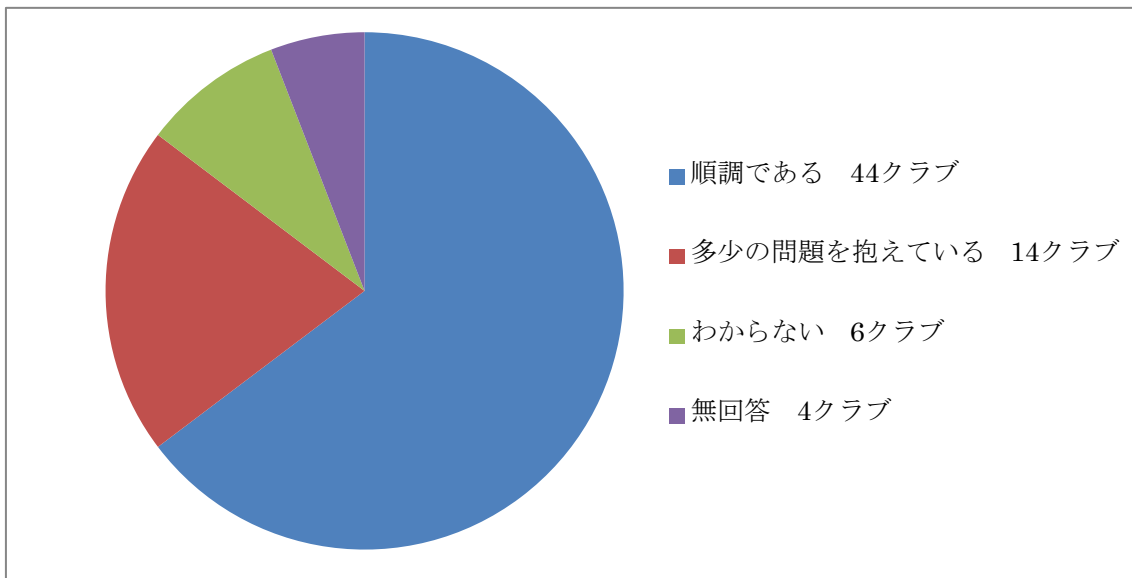
上記の他には、

- ・ 米山記念奨学金並びにロータリー財団寄付の促進と目標達成を心掛けている。
- ・ 災害時の各種支援行動の迅速な実行を心掛けている。
- ・ 海外経験に詳しい方（国際関連知識の豊富な方）による例会卓話の実施。

などの回答を頂きました。

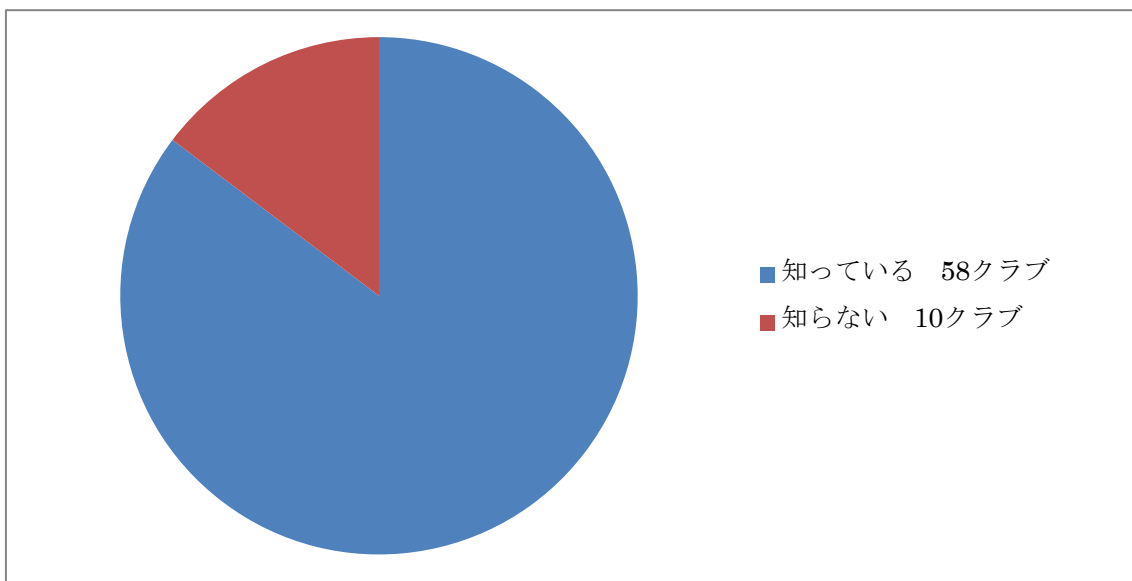
設問 2) 本年度の国際奉仕委員会の活動は順調に行われていますか？

回答 1	順調である	44 クラブ (64.7%)
2	多少問題を抱えている	14 クラブ (20.6%)
3	わからない	6 クラブ (8.8%)



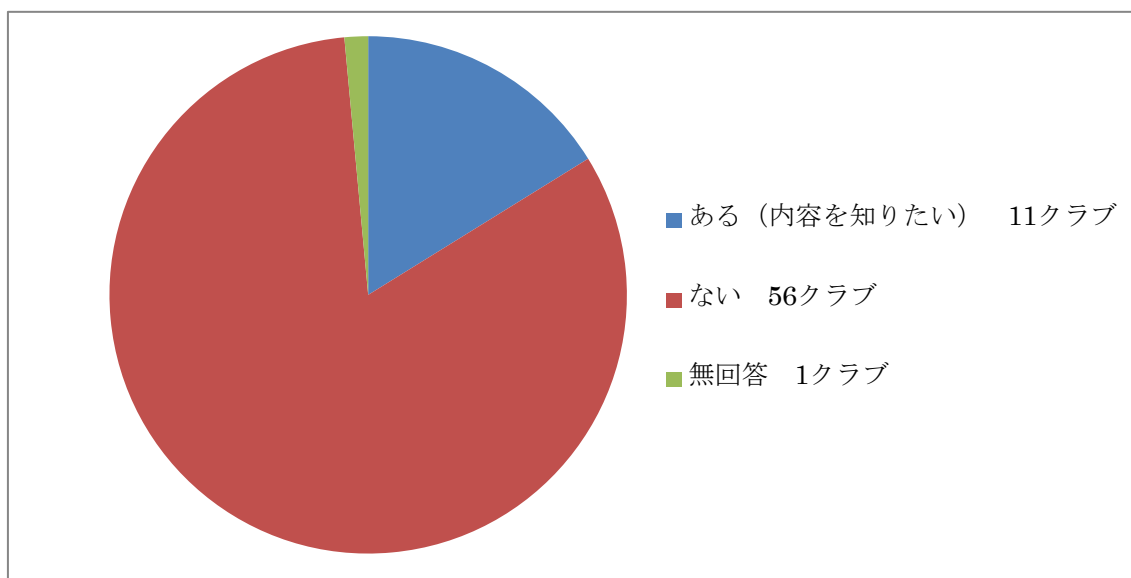
設問 3) 本年度地区補助金のうちマッチンググラントの申し込み枠があることを知っていますか？

回答 1	知っている	58 クラブ (85.3%)
2	知らない	10 クラブ (14.7%)



設問 4) 本年度マッチンググラントに申し込む考えはありますか？

回答 1	ある（内容を知りたい）	11 クラブ（16.2%）
2	ない	56 クラブ（82.4%）



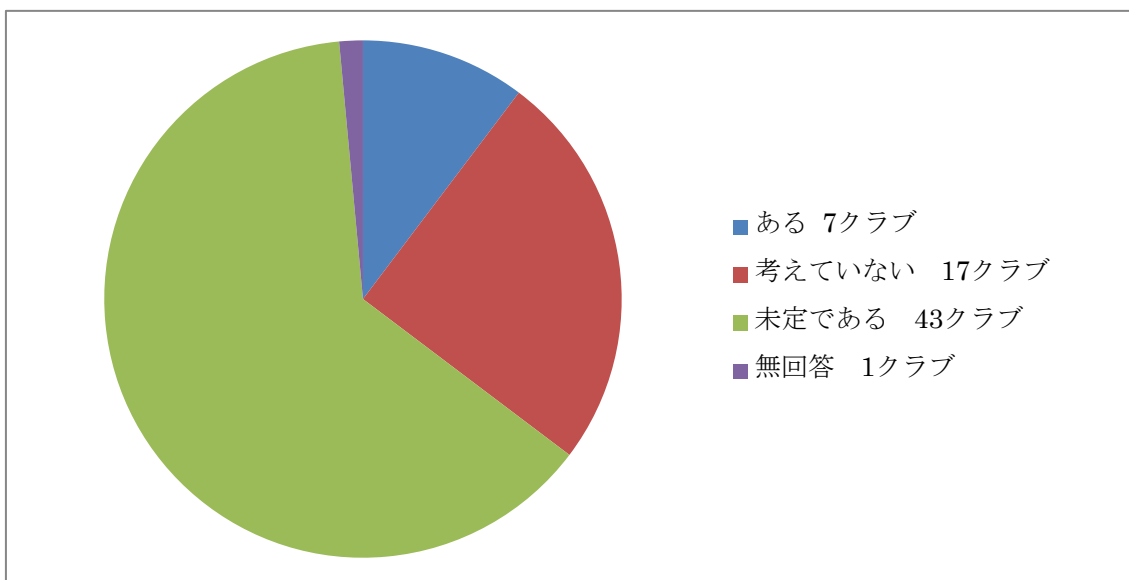
設問 5) 次年度以降、新しい活動の計画や考えはありますか？

- ・「未来の夢計画」の補助金を活用して何らかの事業を検討しているクラブが **5クラブ** 報告されました。
- ・上記以外の新規事業を計画しているクラブが **4クラブ** ありました。

これら9クラブ以外は検討中かもしくは現在のところ検討していないということでした。

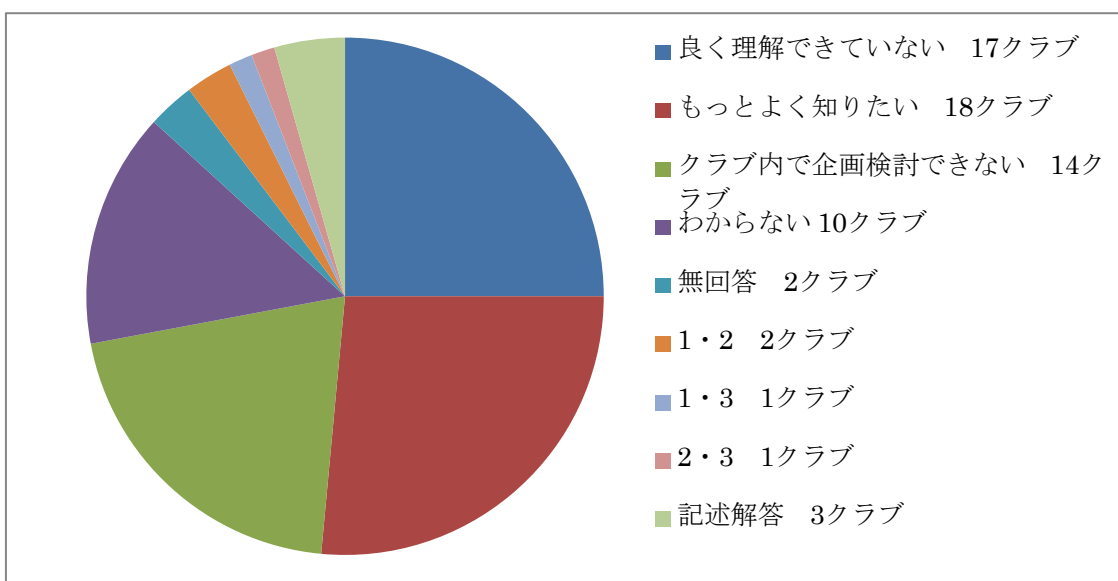
設問 6) 次年度からスタートする新補助金制度のグローバル補助金を申請する計画はありますか？

回答 1	ある	7クラブ (10.3%)
2	考えていない	17クラブ (25.0%)
3	未定である	43クラブ (63.2%)



設問 7) グローバル補助金を使つての国際奉仕活動をする場合の問題点は何ですか？

回答 1	グローバル補助金が良く理解できていない	17クラブ (25.0%)
2	グローバル補助金についてもっとよく知りたい	18クラブ (26.5%)
3	事業の内容をクラブ内で企画検討できない	14クラブ (20.6%)
4	わからない	10クラブ (14.7%)



設問 8) 地区委員会に対しての要望があれば記入ください。

- ・グローバル補助金について再度のセミナー実施をお願いしたい。
- ・広報活動をより積極的にやってほしい。
- ・各クラブ毎にその寄付額に対する地区と個クラブとの補助金額を知りたい。新しい日本財団と地区財団、日本事務局その横の補助金の流れに対する説明を文書、本にて説明して頂ければ幸甚であります。
個人レベルになってしまってはいけないと考えるが、次期はクラブ内でコンセンサスを取って行きたい。
- ・地区内の成功している国際奉仕事例について事例集等をまとめていただけると参考になります。
- ・新補助金制度の使い道を考えるためにも、地区補助金を増やす努力を地区ではもっとやって頂きたいと思いません。
- ・グローバル補助金について詳しく内容を聞きたいです。
- ・現在進めているマッチンググラント申請書作成についてご相談できる地区委員会のメンバーを教えてください。
- ・スモールクラブ(20~25人)程度の会員数クラブにおいてグローバル補助金を計画できません。分区のクラブの計画に協力を積極的に行いたい。
- ・国際活動に詳しい委員さんの増進と委員会の勉強会の開催。
- ・クラブ例会時にR財団の新しい制度について卓話をお願いしたい。
- ・本年8月4日国際奉仕セミナーがあった。中身が大きく変わり今まで国際奉仕＝青少年交換という認識が崩れクラブ内や地区内にて新しい奉仕活動への理解が全くできていない。マッチンググラントやグローバル補助金と言われてもしばらくは難しい。時間がかかるだろう。
- ・グローバル補助金(未来の夢計画)についてサポートしてほしい。理解者が極端に少ない。
- ・国際交流が新世代に移ったので国際奉仕委員会のクラブとしての役割が見えない。フォーラムで方向性を考えたい。
- ・地区からの具体的な指導がほしいという意見がある。
- ・将来グローバル補助金事業を申請するための要点・成功例(申請書類の書き方など初歩的なことから)などその都度各クラブに新情報の発信をお願いします。
- ・海外クラブと協同でグローバル補助金事業を進めていきたいのですが途中アドバイスをお願いします。
- ・情報を発信してください。
- ・未来の夢計画について地区内で上がってきている事例を知りたい。またこれについてのヒントがほしい。出費の少ない国際奉仕活動はどんなものでしょう？
- ・地区内を統制するのであれば今以上にきめ細かな オルグが必要と考えます
- ・地区補助金制度の説明卓話で来ていただきたい。
- ・単独の国際奉仕は不可能だが他クラブとのコラボかサブ的な活動を、という小クラブのために地区内のクラブの活動状況コラボが可能なクラブの情報のリストがあればありがたいです。
- ・最近の情報紙で新たな語句が出た時出来るだけ具体例を示して説明されたい。
- ・クラブ単位でなく分区単位でセミナー希望します。

まとめ

- ・ 全般的に各クラブが今後の国際奉仕活動について、思い悩んでおられる姿が浮かび上がってきました。
- ・ 当該年度の委員長だけでは複数年度にわたる事業計画を立てることの難しさもあると思います。
- ・ 海外姉妹クラブとの関係は国際奉仕事業の一助になっているようです。
- ・ 単独クラブでの事業計画に躊躇される様子も散見されますが、複数クラブによる複数年度の国際奉仕事業が実現できれば素晴らしいことであると思います。
- ・ ロータリー財団の「未来の夢計画」を始めとして、新しく開発されたプログラムの具体的な内容の把握は困難な作業であると思います。地区委員会としても継続的な情報提供や内容説明が肝要と思いますが、各クラブに於いては地区 HP・ガバナーマンスリーター・各種情報物等を総合的、重層的に読み解き、クラブ内の協議を重ねコンセンサス作りにつなげる努力を常に心掛けることが求められているのではないかと思います。